

西三河南部生態系ネットワーク形成フォーラムを開催しました！

平成 29 年 12 月 16 日（土）午後 1 時から、高浜市やきものの里かわら美術館ホールにて、「西三河南部生態系ネットワーク形成フォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、専門家による基調講演、協議会員や地域の中学生、高校生の皆さんによる取組発表：ポスターセッションを行い、西三河南部地域の自然の重要性と生物多様性保全活動の必要性、また活動に携わる方々の熱い思いを、参加者の方に広く知っていただく場となりました。当日は、一般の方々を始め関係者を含む 100 名以上のご参加がありました。

基調講演では、水産海洋学が専門の名城大学大学院総合学術研究科特任教授の鈴木輝明先生による「伊勢・三河湾の貧栄養問題」をテーマとした講演がありました。

鈴木先生は元愛知県水産試験場長で、干潟・浅場やアマモ場の物質循環の解析に関する研究等を実施されています。

講演の要旨は次のとおりです。

『現在、伊勢・三河湾の貧酸素化は漁業生産に深刻な影響を与えている。これまでは、窒素、リンの増加が貧酸素化の原因と考えられたため、総窒素（TN）、総リン（TP）の削減に向け環境基準が定められた。その達成のために陸域における水質総量規制を実施してきたが、その結果、貧酸素水塊の改善が達成されないだけでなく、植物プランクトン濃度が低下し栄養不足を招き、アサリ漁業に悪影響を及ぼしている。今では、公共用水域の水質保全は、企業努力や公共下水道整備により環境基準が達成され「きれいな海」になったが、今後は窒素、リンに関しては削減するだけではなく、海洋の生物生産にとって望ましい濃度環境が整う「豊かな海（豊かな水産資源が湧き出る海）」となるよう、目標を再設定し、それを実現することが重要である』などのお話がありました。

取組発表では、西尾市立佐久島中学校 海グループの大島楓さん、千田健士さんが「佐久島里海再生プラン」と題して、豊かな里海の再生を目指して 15 年以上取り組んでいる、アマモを保全する活動について発表がありました。

次に、株式会社オティックスの村田一樹さんから、「本物の森をつくる『OTICS の森づくり』」と題して、2018 年の創業 100 周年に向けて、現在行っている取組の紹介と、「本物の森」の意義についての発表がありました。

また、県立碧南高等学校科学部の皆さんからは、「地域と連携したオオキンケイギクの除去活動」と題して、特定外来生物であるオオキンケイギクが地域の自然環境に及ぼす影響と、「碧南市」「へきなん市民環境会議」と連携して取り組んでいる除去活動の紹介があり、来年度の活動について、参加者への呼びかけがありました。

碧南海浜水族館の学芸員、地村佳純さんからは、「水族館が取り組む希少種の保護活動」と題して、絶滅危惧種のウシモツゴを始め、地域の淡水魚の保護増殖活動の取組と自然環境をテーマにした教育プログラムの紹介がありました。



開会あいさつ：協議会会長片山幸士氏



基調講演：名城大学大学院総合学術研究科
特任教授 鈴木輝明氏



取組発表：西尾市立佐久島中学校



取組発表：株式会社オティックス



取組発表：碧南高等学校 科学部



取組発表：碧南海浜水族館

※発表要旨については要旨集をご参照ください。

ポスターセッションでは、協議会に所属する7団体から、生物多様性保全に係る取組について、パネル展示と活動紹介があり、興味を持って質問をする参加者の姿が見られました。



ポスターセッション（パネル展示）

【会長あいさつ】

環境問題への市民の意識の高まりは衰えることはありません。このような中で愛知県内では、「人と自然が共生するあいち」を目指し、県内に9つの生態系ネットワーク協議会が設立され、「西三河南部生態系ネットワーク協議会」も、市民・企業・行政が一体となって、生物多様性保全の取組を進めています。

今年度の取組は、まず5月に植物の外来種駆除活動の一環として、矢作川河口の両岸、碧南市と西尾市でオオキンケイギクの除去を行い、2時間程の活動で約650kgを取り除きました。今日の取組発表でも、碧南高等学校科学部の生徒さんがこの活動を継続することの重要性を話されると思います。

また、8月には酷暑の中、動物の外来種駆除と希少種保護活動の一環として、西尾市小草池でミシシippアカミミガメの駆除とニホンイシガメの保護を目的にカメわなの設置と除去の講習会を開催しました。

さらに10月に「佐久島まるごと自然体験ツアー」を予定しましたが、台風21号のため中止となり、11月3日に延期したにもかかわらず多数の児童・生徒や父兄の参加があり、一日をかけて海岸の清掃、磯の観察会、カクレミノの伐採を行い、身近な自然を守ることの大切さを楽しく学びました。

その他現在、碧南海浜水族館内に、ニホンイシガメの生息施設を造成しており、今後この地域に生息するニホンイシガメを保全していく予定です。

本協議会は、平成30年度も引き続き、このような西三河南部地域の豊かな自然を再認識していただき、生物多様性保全の取組へ展開していけるような活動を計画しています。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。